

「1年間ありがとうございました」

<南風 第15回 3月>

3月は旅立ちの季節と言われています。早いもので、令和6年度も終わりを迎えます。今年度、子どもたちの笑顔とがんばり、保護者や地域の皆様の支援・協力、そして職員のチームワークでいいゴールを迎えることができました。ありがとうございました。

先日の卒業式では6年生が大変立派な姿で南小を旅立って行きました。6年間の思い出に涙する姿、中学生活の希望に満面の笑顔が多く見られ、感動の一日となりました。また、見送る5年生も次の南小を引っ張る最高学年として、すばらしい歌声と呼びかけて卒業式を盛り上げてくれました。

卒業式の式辞の中で、卒業生に二つのことを話しました。一つ目は「諦めずに、挑戦する」ということです。今後、いろいろうまくいかなくて悩むこともあることと思われれます。だから、多少の困難にぶつかっても、自分の道を自分で閉じてしまわず、諦めずに挑戦し続ける人であってほしいと願っています。

もう一つは「感謝の心を忘れない」ということです。我々は一人で生きていくことはできません。それは誰もが同じであり、これからもそうです。「ありがとう」という言葉を大切にいていくために、からだに障害があり、ベッドに寝たきりの生活を送ってみえる大越 桂(おおごえかつら)さんという詩人を紹介しました。その大越さんの詩「ありがとうの行き先」にこんな一節があります。

ありがとう ありがとう 一生に何度も ありがとうと言おう

ありがとうの行き先は ありがとうが旅をして

必ずここにもどるとき みんなと一緒にの幸せがある

きっと大越さんは「ありがとう」という言葉は、みんなが幸せになる言葉だと語っているのではないのでしょうか。世の中、当たり前のことはひとつもありません。すべてが「何かのおかげ」です。感謝の心で、一日一日を大切にしてほしいです。

今日の修了式でも、1~5年生に向けて、「今日はいろいろな人にたくさんの『ありがとう』を言いましょ」とお願いをしました。友だちや家族のおかげで楽しい1年が送れたことに感謝して、次の学年を迎えてほしいものです。

各学年代表の振り返りの作文発表でも、「友だちと仲良くできてうれしかった」「算数で〇〇ができるようになった」とがんばりの成果を発表してくれたことがうれしく思えました。どの子もたくさんの満足館を得て、今学年を終えようとしています。

最後に私事になりますが、今年度4月に南小に赴任してきて、不安ばかりでした。しかし、子どもたちのがんばりに勇気をもらい保護者や地域の方々の温かい励ましに支えられ、職員のがんばりに己を奮い立たせ、なんとか3月のゴールを迎えることとなります。ただ、ただ、感謝の気持ちしかありません。この1年間ほど、「感謝」の気持ちが身に染みだしたことはありませんでした。

次年度も「感謝」と「あきらめない心」で南っ子といっしょに職員一同、全力を尽くしたいと思えます。よろしく願います。

ありがとうございました。